

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problems Mailbox.**

-1-

| | |
|-----------------------|---|
| ACCESSION NUMBER | 79-056847 |
| TITLE | MEDIUM FOR THERMO TRANSFER RECORDING |
| PATENT APPLICANT | (2000100) CANON INC |
| INVENTORS | HARUTA, MASAHIRO; NISHIMURA, YUKIO; TAKATORI, YASUSHI; NISHIDE, KATSUHIKO |
| PATENT NUMBER | 79.05.08 J54056847, JP 54-56847 |
| APPLICATION DETAILS | 77.10.14 77JP-123349, 52-123349 |
| SOURCE | 79.07.05 SECT. E, SECTION NO. 121; VOL. 3, NO. 78, PG. 110. |
| INT'L PATENT CLASS | B41M-005/26 |
| JAPANESE PATENT CLASS | 103K3; 116F3 |
| JAPIO CLASS | 29.1 (PRECISION INSTRUMENTS--Photography & Cinematography); 14.2 (ORGANIC CHEMISTRY--High Polymer Molecular Compounds); 29.4 (PRECISION INSTRUMENTS--Business Machines) |
| FIXED KEYWORD CLASS | R002 (LASERS); R042 (CHEMISTRY--Hydrophilic Plastics); R125 (CHEMISTRY--Polycarbonate Resins) |
| ABSTRACT | PURPOSE: To enable good quality recording to be performed with good transfer efficiency and provide the medium having durability suitable for continuous use by holding solid ink showing thermoplasticity in a multiplicity of through-holes provided in the carrier. CONSTITUTION: A substrate of about 60 to 400 mesh having cylindrical form pores of preferably less than about 100.mu. in sectional diameter and having heat resistance and flexibility is formed in sleeve form or endless belt form. The solid ink which is composed of the composition containing waxlike substance or thermoplastic resin and coloring agents and exhibits thermoplasticity within a temperature range of 40 to 200 Deg.C, preferably 40 to 160 Deg.C is filled in the pores of the substrate while it is in a softened or molten state. This thermo transfer recording medium 3 and the medium to be transferred 4 are superposed and heat information 5 such as laser light source is applied from the medium 3 side, then the heat-sensitive solid ink 6 is transferred to the positions corresponding to the information 5 |

日本国特許庁(JP)
公開特許公報(A)

特許出願公開
昭54-56847

Int. Cl.³
B41M 5/26

識別記号 53日本分類
103 K 3
116 F 3

庁内整理番号 43公開 昭和54年(1979)5月8日
6609-211

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 6 頁)

54熱転写記録用媒体

21特 願 昭52-123349
22出 願 昭52(1977)10月14日
23発 明 者 春田昌宏
船橋市宮本4-18-8、パール
マンション203
同 西村征生
相模原市鶴の森350-2、リリ

エンハイムC-407
24発 明 者 廣取靖
町田市本町田2424-1 町田木
曾住宅ホ-12-404
同 西出勝彦
横浜市旭区中沢町56-516
25出 願 人 キヤノン株式会社
東京都大田区下丸子3-30-2
26代 理 人 弁理士 丸島優一

明 細 書

1 発明の名称

熱転写記録用媒体

2 特許請求の範囲

- (1) 多数の貫通孔を有する担体と前記貫通孔中に保持された熱塑性を示す樹脂インクとから成ることを特徴とする熱転写記録用媒体。
- (2) 貫通孔が円筒形状をなす特許請求の範囲第1項記載の熱転写記録用媒体。
- (3) 担体が凹板形状或いは無通孔状をなす特許請求の範囲第1項記載の熱転写記録用媒体。
- (4) 担体が耐熱性材料により構成されている特許請求の範囲第1項記載の熱転写記録用媒体。
- (5) 担体が可塑性を示す特許請求の範囲第1項記載の熱転写記録用媒体。
- (6) 図形インクが、ろう状物質と熱可塑性樹脂の

何れか一方、又は両方と色剤を含む組成物から成る特許請求の範囲第1項記載の熱転写記録用媒体。

- (7) 図形インクが、60℃乃至200℃の温度範囲で熱塑性を示すものである特許請求の範囲第1項記載の熱転写記録用媒体。

3 発明の利点を説明

本発明は、熱転写記録方式において用いる転写媒体に関する。更に詳しくは、熱転写記録用媒体構成の改良に関する。多種多様の記録方式が広く実用に使われている現在、中でもカーボンプロセスを利用した、所謂、ブレーション・ペーパー型写像が市場において急激な成長を遂げている事実が示すように、用紙品たる記録用紙として、特殊紙を使用せず、普通紙に転写記録をなすための記録方式が望まれるのは、用紙コスト、操作性、記録の

ライティング、公署用等々の観点よりして、時代の趨勢であると言える。斯かる記録方式にあつて、例えば、電子写真方式、静電印刷方式を利用した装置は装置を簡便を必要とし、大型化、又、高コスト化するのを避け得ないと云う欠点があり、例えば卓上電算機に組み込む為の簡易なプリンター等として応用するには限界がある。他方、装置的には、比較的簡易なものとして、インクリボンの上から活字ブランク、ペンマー、ワイヤードット等で画線をかいて、用紙に印字する、所謂、インパクト方式の記録装置が汎用されているのも事實であるが、これ等に共通する欠点は、印字記録時の騒音が大きい事、ノコの記録部が多い為、印字スピードが上げられない上、部品の摩耗等による故障が多く、メンテナンスが煩わしい事、等である。中では比較的欠点が少ないとされている

インクを前記所定の文字又は図形の形に局部的に加熱して流動性を与え、前記記録紙に印字する機構を有する事を特徴とする感熱インクを印字する印刷機であると理解され、確かに特殊紙を用いない通常の熱転写式印刷機を提供した点、注目されるものではあるが、斯かる記録方式においてはインクキャリアを介して熱源が付与される為、インク層への熱伝達を良くして部材で無い、即ち良品質の記録をなす為には、インクキャリアへのインクの塗布の厚みは極めて厚くする事、更にインクキャリアそれ自体が非常に厚い膜でなければならぬ事等、かなり厳しい条件の制約を受けるものであり、その点不利である。又、インクキャリアが非常に厚い膜である場合には、その機械的強度が低く、使用耐久性に乏しいと云う不利もある。

特開第54-56847(1)ワイヤードットインパクト方式の装置としても、尤も電熱石を多数内蔵する為、一ノコ配電、バクテ化する事が困難を上、電熱石を、移動させる為の、大電力を消費するという問題点を有する何れにしても、印字精度が高い場合には、インクインを輪置に交換するわずらわしさがあり、又、反復使用のできる相手のテープを使用すると、印字品質が悪く劣悪化するという不利がある。又、一方では斯かるインパクト方式の欠点を無く、所謂、熱転写記録方式も幾つか提案されている。その一例が特公第49-28243号公報に開示されている。斯かる技術思想を要約すると、略々、常温においては固相であり、加熱によつて可逆的に液相になるか流動性を持つ如き印刷用感熱インクを記録紙に印字する印刷機であり、所定の文字又は図形を発生する如く構成された印刷装置が前記感熱

本発明においては斯かる技術に鑑み、上述の如き熱転写記録方式における感熱媒体の改良をなさんとするものであり、第1に、転写効率よく、品質の記録をなすことのできる熱転写記録用媒体を提供することを目的とする。第2には、連続使用に適した耐久性のある熱転写記録用媒体を提供することも目的である。上記の目的を達成する本発明とは、要するに、多数の貫通孔を有する円体と前記貫通孔中に保持された熱電性を示す図形インクとから成ることを特徴とする熱転写記録用媒体である。以下、本発明をより明確ならしめるため、図面を参照しつつ詳細に説明する。

第1図に、本発明熱転写記録用媒体の一構成例を示す。第1図(a)はその一部を示す平面図、第1図(b)は同部断面図である。図において、1はステンレス、銅、アルミニウム等の金属板、或いは

タイロン、タトロン、タフロン、アクリル樹脂、ポリカーボネート、ポリイミド、フェノール樹脂等合成樹脂フィルムからなる基板であり、中でも耐熱性及び可塑性のあるものが好適である。又その厚さは約10μから数mmのもので使用可能である。上記基板1には、円筒状の貫通孔3が多数穿設されており、斯かる各穿孔3中には、加熱により酸化反応を起す有機物においては固相にある感熱固形インクが充填されている。第1図に例示した貫通孔の断面形状は円形状であるが、本発明においては円形状に限らず、矩形状、橢円状、星形状、又はこれ等の組み合わせによる形状であっても良い。本発明に係る転写記録においては、前記貫通孔の各々が形成されるべき領域の各領域に相当する。中でも、使用上好適な貫通孔は、断面径約100μ以下の円筒状穿孔である。

の単独或いは更に熱可塑性樹脂とから組成されたものである。ろう状物質としては蜜ロウや植物油もしくは植物油等の油酸類が使用できるが、例えば、マイタロタリステリンワフタス、カルタウバワフタス、水酸化ひまし油ワフタス等のワフタス類、ミリスチン酸、ステアリン酸、パルミチン酸、ベヘン酸の如き、高級脂肪酸とその金属塩、その他、ステアリン酸モノラウロール、ベラフィン、ポリエタレングリコール、炭素、ペンゼアミド、アセトアミドベンズトリアゾール、フェニケチン、ジメチルビスフェノールA等が更に具体的に挙げられる。熱可塑性樹脂としては、ポリ塩化ビニル、ポリ塩化ビニリデン、ポリビニルアルコール、ポリビニルブタール、ポリビニルアルコール、ポリビニルアセテート、ポリカーボネート、ポリスチレン、タマロン樹脂、塩化ビニルとア

第1図に示した熱転写記録用媒体の固形インクのキャリアは基板に貫通孔を多数穿設したものであるが、その際、メッシュ状媒体を使用することもできる。例えば、ステンレスメッシュの組織成いは耐熱性のある合成繊維等を用いることによる可塑性の網であり、そのメッシュ数は60から600メッシュ程度である。このような網を使用する場合平織、あや織、又はしゅう織による網の例れでも良く、更に、それ等の網を加圧変形させて使用に供しても良い。

以上、発明した固形インクのキャリア（担体）は第2図に示す如く、スリブ状に構成しても良く、又、第3図に示す如く無端状に構成しても良い。その時、前記キャリアの素材が可塑性を示すことは取扱い上好都合である。本発明で使用する感熱固形インクは染料、顔料等の色料と、ろう状物質

タル酸エステルとの共重合体等が使用できる。色料としては染料、顔料の他、加熱された後着色する成分を使用することができる。

例えば、長鎖脂肪酸塩（たとえばステアリン酸第3級、ミリスチン酸第3級）と、フェノール類（タンニン酸、没食子酸、マルタル酸アンキニウム）又、有機金属塩（ベヘン酸銀、ステアリン酸銀）と芳香族有機金属元素（プロトカタン酸、ヘイドロキノン）、又、タリスタルバイオレフトラクトン等のラクトン類とフェノール類（ビスフェノールA、フェノール樹脂）又、レゾルシンとニトロ化合物、又、テトラゾリウム塩と還元剤と塩基などを例とする多成分系感熱発色剤、尿素誘導体などのアミン発色剤とPH指示薬又、アミン発色剤とジアゾ化合物とカブラー、又、置換ベンゼンジアゾエウムタル酸塩と多価フェノ

ールとニトロソ化合物、アミン発生剤とフラッシュ源など、ある温度になると熱分解が急激におき、その熱分解物と発色反応をおこす物質の組み合わせによる熱分解反応成分系、インドール誘導体ピロロン誘導体、置換アミノジアルキル炭素の置換炭素など単独で電圧により発色する単独発色成分などがあげられる。

以上の成分が熱時反応され、それが敏化剤または発色状態にある間に、前述のキャパシタ中の空孔中に電圧、浸漬等の手法により充満される。斯かる感熱インクは、加熱源としてマーマル・ヘッドを使用する際、ヘッドの加熱に充分応答できるように約40℃乃至100℃、特に好ましくは約40℃乃至100℃の温度範囲で熱変性を示すよう予め、その組成比を規定しておくことが望ましい。

本発明に係る熱転写記録用媒体としては、情報源とし

ての熱が、感熱インクに対して直接印加される場合情報伝達の効率が良く、感熱インクの転写を簡便に行なうことができる。又それに要する熱量も従来の方式に較べて少なくてすみ、経済的である。更に本発明の熱転写記録用媒体においては、熱電圧、電圧の恐れが少なく、使用耐久性に富むものであり連続使用に適している。

ここで、本発明熱転写記録用媒体の適用例を因由に説明する。

第1図は熱情報源として熱針線を利用して転写記録を行なう方法を示しており、先に例示した如き熱転写記録用媒体と被転写媒体としての紙、樹脂フィルム等とを重ね合わせ、熱転写記録用媒体側から熱情報源を印加し、情報源に対応する箇所感熱感熱インクの転写をなす方法を略図的に示した。なお、熱情報源を与える手

段又は機器としては、キセノン、ヘリウム等を例とするフラッシュ光源、タンダスタンプ等を例とする紫外線ランプ、炭素ガス、半導体、アルゴン等を例とするレーザー光源等を挙げることができるが、中でも望ましくは熱パターン以外の場所「かぶり」を生じさせぬうちに、所定のパターンにのみ高強度の照射を照射出来るものが多い。その点でフラッシュ光源、レーザー光源等が望ましいものと言える。

又、熱転写記録用媒体と被転写媒体とは図示の如く多少の間隙を置いて配されてもよく、密着した状態で配されてもよい。

第2図により又別の方法を示す。斯かる方法においては、先ず、電圧源より発生した電圧が図示していない電気回路を経て熱ヘッドに伝わり、ここで熱ヘッドに含まれる感熱体が発熱し、そ

の発熱箇所にある感熱感熱インクが第1図と同様の場合と同様に被転写媒体上に転写される。本図示例において使用する熱ヘッドとしては、蒸気法により感熱体を構成するいわゆる蒸気ヘッド、スクリーン印刷等の方法により感熱体を構成する厚膜ヘッド、半導体作成手法により感熱体を構成する半導体ヘッド等がある。

本発明においては、感熱感熱インクが転写により一部欠如した熱転写記録用媒体の空孔に再度、敏化剤または発色状態にある感熱感熱インクを充満して再配したものを再度使用或いは連続使用に供することもできる。

更に実施例を挙げて本発明を詳述する。

実施例-1

直径30μの円型空孔を100μピッチでスクリーン状にエッチングされたステンレスメッシュを用

い、これに下記組成の分散液を塗布し乾燥して転写記録用媒体を作成した。

| | | | |
|-------------------------------------|-----|-------|-----|
| アシッドアクリルブラフタ | 0.2 | | 30g |
| アクリル樹脂 (東亜合成社製SEY-1, 50%メキシレン溶液) | | | 10g |
| メタメチルケトン | | | 60g |

この媒体と上質紙を重ねて第4図のようにパターン状にヤシノンフラッシュ光を、理研科学社製のモノグラフスー150を用いて1/1000秒間照射した所、光の当たった所のメッシュ孔中のインクが紙の方へ転写され、その部分のメッシュ孔は空となつた。紙に転写されたインクはそのままで紙の面に固着されドットパターンを形成した。

実施例-2

径30μ、100μピッチのステンレスプレス金網のメッシュ空孔に下記組成の染料とバインダーの溶液をうめこみ、乾燥して転写用媒体を作成した。

この転写用媒体と紙を重ねて転写用媒体側からスポット径30μ、出力100mWのYAGレーザーを100/secのスピードで走査した所、レーザーの照射された所の空孔中のカーボンブラフタは、紙に転写され固着された。一方、転写用媒体はレーザー光の当たった所は空孔となつていた。この状態に空孔を有する転写用媒体と、新たに用意した紙とを重ねて転写用媒体側から孔板印刷用インクを、ローラー等で全面に付与した所、固着した空孔となつた所から紙にインクがしみ込んで孔板印刷がなされた。

実施例-3

実施例-2と同様にして作成された転写用媒体をエンドレスベルト状に加工し、アルゴンイオンレーザー（出力300mW、スポット径30μ）で走査し、紙へ染料を転写した。次いで、実施例-2と

た。

| | | |
|---------------|-------|------|
| カーボンブラフタ | | 30g |
| カルナウバワックス/蜜ロウ | | 5/3g |
| メキシ | | 30g |

この転写用媒体と上質紙を重ねて、第4図のように転写用媒体側からスポット径30μ、出力300mWのアルゴンイオンレーザーを1/1000秒間照射した所、転写用媒体の空孔中にうめこまれていたカーボンとワックスの混合物が紙の方に転写され固着された。

実施例-4

実施例-1と同様にメッシュの空孔中に下記分散液をうめこみ乾燥して、転写用媒体を得た。

| | | |
|----------------|-------|-----|
| カーボンブラフタ | | 30g |
| ポリビニルピクリル(10%) | | 30g |
| エタノール | | 30g |

同様の染料とバインダーからなる染料溶液を転写用媒体に付与して、転写後の空孔となつた部分に再度染料をうめこみ、乾燥して元の転写用媒体に再生し、また転写記録を行なう工程をくり返して記録を連続的に行なつた所、良好な結果を得た。

4. 図面の簡単な説明

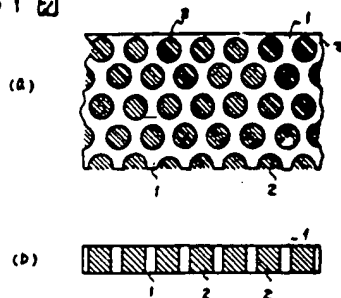
第1図(a)及び(b)、第2図、第3図は夫々本発明熱転写記録用媒体の構成例を説明する略式図であり、第4図及び第5図は本発明熱転写記録用媒体の使用例を説明するための略式断面図である。図において、

- 1.....基板、2.....貫通空孔、3.....熱転写記録用媒体、4.....被転写媒体、5.....感光図形インク。

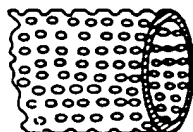
出願人 ヤシノン株式会社

代理人 丸島 昌

第 1 図



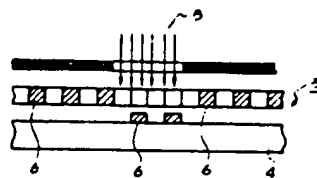
第 2 図



第 3 図



第 4 図



第 5 図

